

会議結果報告（平成30年度業務実績に関する意見）

評価報告書の項目別評価：波線

令和元年度第1回前橋市公立大学法人評価委員会（令和元年7月25日）

主な意見

〔年度計画 No. 2〕

- ・オープンキャンパスの参加者が増えており、いい企画をしたと思う。学生募集活動を強化する目的として、オープンキャンパスの参加者のうち受験した数は把握しているか。（梶委員）
- 受験した数と入学した数は、オープンキャンパスから繋げて把握している。数字は改めて示したい。（猪俣学務課長）
- 年度ごとの割合を把握しているか。（梶委員）
- システム導入してからのため、平成30年度から把握をし、分析を始めた。（猪俣学務課長）
- オープンキャンパスが成功したかどうかは受験した率だと思うため、今後も把握しておくべきである。（梶委員）

〔年度計画 No. 11〕

- ・平成30年度から1年生全員にTOEICを受けてもらっているようだが、2年生以上は受験率が低い。英語力の向上を図るのであれば、1年次だけの受験で終わらない仕組みに変更が必要だと思う。また、理系の英語力はTOEICだけではないと思うが、いかがか。（梶委員）
- 平成30年度から1年生全員に受験させ、TOEIC賛助会員に登録したため、これから継続的にやっていけると思う。今後は繰り返しの受験も検討していきたい。また、学生に対して英語が大切と認識させている学料も少ないため、今後改善し、学校を通して指導していきたい。（星学長）

〔年度計画 No. 27〕

- ・5年間システムの構築だが、6年間の実績には、「入学する意志のある学生数が少なく、制度確立がむずかしい」とある。一方で、年度計画の実績には、学生が少ないということではなく、「学科改編の要望とあわせて検討していく」という書き方になっていて、方向性がずれている気がする。（富山委員）
- 当初は、博士前期後期の5年間をトータルに勉強する仕組みを作りたいと考えていた。ただ、博士後期に進む学生が少ないため、不十分であるということと、大学の対応がまだできていない。具体的な対応については、これまでの反省をもとに、これからの6年間で構築し直そうと考えており、平成30年度の実績の中で総括している。（星学長）
- ・平成30年度の年度計画では評価がBになっている。11月20日に市から要望が出され、そこから何かしらの進歩や議論があったからBということか。（後藤委員）
- 市からの措置を踏まえ、新たな形で議論をスタートすることができたため、Bとしている。（新井事務局長）

→これから積み重ねていくことになると思うが、このままの取り組みが積み重なっていても、最終でBには至らないと思う。平成30年度の年度計画が「議論する」というものになっているが、それが毎年繰り返されると次の第2期も結果としてCになる可能性が高くなると思う。今後は議論する先に何か進む可能性があるか。(後藤委員)

→議論だけしていても成果は出ないため、今後は、現行の中期計画を進めていくなかで、どこかで成果を出さなければいけないと考えている。しっかりと取り組みたい。(新井事務局長)

→Cがついたところは、より改善をしていかなければならないと明確になっている点として、市民も見る。意思表示としてこの表現のままでBとすると、首をかしげられる可能性がある。前向きな検討が進んでいるということがわかるとよい。(後藤委員)

[年度計画 No. 37]

・議題(1)の決算の報告で、添削支援業務費用が58万円だったと報告を受けた。添削を受けた件数、採択された件数、獲得した間接経費のデータを持っているか。獲得した間接経費額が58万円を上回れば効果があったといえる。(花泉委員長)

→添削支援に応募いただいたのが16件、最後まで添削をしたのが14件、採択になったのが6件である。間接経費の額は改めて示したい。(猪俣学務課長)

(※会議後確認した結果、採択件数は4件であった。)

→6件あればその分の間接経費の合計はおそらく58万円は超えるだろう。効果があつたことは実績として記載した方がよい。(花泉委員長)

[年度計画 No. 85]

・年度計画では、発達障害者支援センターのセミナーに事務局職員が参加したとある。別添資料58を見ると、自閉スペクトラム症等、特別な支援を必要とする学生に関する内容であるため、これについては計画にあるハラスメントの防止に関するものではなく、学生の学習支援の項目に書くべき内容だと思われる。ハラスメントの防止対策としての講習会やセミナー等は実施したか。(花泉委員長)

→実績に書いたこと以外のことはしていない。年度計画No.76、No.82に記載したコンプライアンスの研修を、群馬県警を講師に招いて実施したのみである。毎年やるべきであるが、1年おきに実施しているのが現状のため、平成30年度はハラスメント研修はしていない。(桑原補佐)

→グループウェアに資料を掲載したとあるが、関心のない人は見ない。大事なものは掲載するだけでなく、必ず見たことを確認し、評価にも反映する仕組みの方がよい。(花泉委員長)

・ハラスメントに関するDVDを視聴する際には、全教員を対象に視聴している。(桑原補佐)

→講義室等に集まって視聴をしているか。また、出欠はとっているか。(花泉委員長)

→出欠を確認している。全体会議の中で視聴しているため、基本的には全員出席している。(桑原補佐)

→ハラスメントの相談窓口が事務局となっているようだが、教員の中にもハラスメント相談員が

いるのか。(花泉委員長)

→教員にも相談員がいる。保健師もいる。(桑原補佐)

→学生から見て、誰が相談員か分かるような掲示をしているか。(花泉委員長)

→している。(桑原補佐)

→その辺りのことを実績に詳しく書いた方がプラスの評価となる。(花泉委員長)

〔年度計画 No. 87〕

・教員や役員のなかで女性の占める割合の数値目標は設定しているか。(花泉委員長)

→数値目標は設定していない。教員採用の公募の際に、女性を積極的に登用する大学であることを採用文の中に入れてある。(桑原補佐)

→工学系ということもあり、なかなか女性の教員が集まらないのが現状である。女性限定の公募をする等の工夫が必要だと思う。女子学生にとっても、相談事があったときに女性の教員がいるとよい。役員においても、女性からの発想が出ない中での意思決定はあまりよくないため、目標数値を設定する必要があるのではないかと思う。男女共同参画の部署を設置することも考えられる。(花泉委員長)

→検討したい。(新井事務局長)